

# 『ふるさと山口』の発展に向けた新たな一歩を！



今年で「山口七夕会」は創立以来 20 年、私が原野前会長から会長を引き継ぎ 10 年が経過しました。この間、「ふるさと山口の発展に貢献する」という旗印を掲げ、「2020 年ヴィジョン」のもとに、首都圏と地元山口との交流を様々な活動を通して、深めてまいりました。会員の増強も図れました。これは、ひとえに、会員の皆様を始め、山口七夕会に関与された多くの皆様のご支援ご協力のお陰でございます。改めて、御礼を申し上げます。

8 月 3 日に開催された、創立 20 周年の節目の年の定時総会では、会則の改訂や役員の変更を行うとともに、長年山口七夕会に貢献していただいた方々を、山口市の渡辺市長より功労者として表彰いただきました。また、20 周年を記念して今回新たに創設されました「山口七夕ふるさと大使」の委嘱も行われました。功労者表彰を受けられた方々とともに歩んできた 20 年を振り返りつつ、郷土山口市の発展に寄与することを会の第一目的に掲げた新会則と若返りを図った役員体制のもと、山口七夕会は次の 10 年に向けて新たな歩みを始めます。山口七夕ふるさと大使の活動にも、大いに期待します。「ふるさと山口」の益々の発展と会員各位のご健勝を祈念し、皆様とともに次のステージへ新たな一歩を踏み出しましょう。

令和元年9月

山口七夕会  
会長

\*\*\*\*\*

＝目次＝

◇八木会長/挨拶-----1	山口七夕ふるさと大使委嘱----- 14
◇祝辞	山口七夕ふるさと大使リスト-----15
山口市長 渡辺純忠-----2	山口七夕ふるさと大使設置要綱-----16
山口市議会議長 坂井芳浩-----3	山口七夕ふるさと大使候補者選考基準-----17
◇特別寄稿(山口七夕会創立20周年記念)	☆寄稿「山口ゆめ花博ツアーに参加して」・久永洋子---18
「山口ちようちん七夕まつりin世田谷」・馬越尚史---4・5	◇山口本部夏の講演・交流会-----19
◇令和元年度定時会員総会-----6・7	◇平成30年度活動の記録・報告-----20・21
会則改訂----- 8	【山口本部】第5回音楽祭「輪-Rin-」(報告)-----22
新組織概要----- 9	【山口本部】田植え大会(報告)-----23
新役員リスト-----10	【本部】「ゴルフ同好会活動」(報告)----- 24
【20周年記念行事】	◇新会員・法人会員の皆さん----- 25
功労者表彰----- 11	◇事務局からのご案内(SNS 活用のお勧め)----- 26
☆功労者寄稿「私と山頭火」・石田順康-----12	◇事務局からのお知らせ(法人会員募集他)-----27
☆功労者寄稿「幹事長10年を振り返って」・山縣正彦-13	◇イベント情報----- 28

## 祝 辞



山口市長

渡辺純忠

山口七夕会会報第6号の発行に当たりまして、心からお祝いを申し上げます。

山口七夕会におかれましては、この度、平成11年の創立から20周年の節目を迎えられましたことを重ねてお祝いを申し上げますとともに、初代会長の原野様や現会長の八木様を始めとする会員の皆様方が、20年の長きにわたり、ふるさと山口市への熱い思いをもって山口七夕会の活動をこのように活発に続けてこられましたことに、心から敬意を表する次第でございます。

また、去る8月3日に行われました山口七夕会創立20周年記念定時総会におきまして、本市の魅力を広く発信し、イメージアップやシティセールスに特に積極的に取り組んでいただくため、50名の方々に「山口七夕ふるさと大使」を委嘱いたしましたところでございます。今後、山口七夕ふるさと大使を始めとする会員の皆様が、本市の力強い応援団として様々な場面で活動されるとのことでございまして、大変心強く感じているところでございます。

さて、本年は、平成の時代から新たな元号「令和」のもと、新しい国づくり、そして山口のまちづくりを未来につなげていく、歴史的に意義深い年でございまして、本市では今日までのまちづくりと新たな時代のまちづくりをつなぐための意欲的な事業展開を行うこととし、山口・小郡両都市核それぞれの特長を生かす取組を進めているところでございます。

まず、山口都市核では、新本庁舎の建替整備を進めておりまして、今年度は基本設計を行うことといたしております。また、山口県ナンバーワンの観光・文化創造都市を目指して、湯田温泉の恵みを生かした新たな拠点施設として、多世代交流・健康増進拠点施設の整備を進めているところでございます。

また、小郡都市核では、山口県ナンバーワンのビジネス拠点を目指して、本年4月に、新たな交流を生み出す、県内最大の2,000席の多目的ホールを備えた産業交流拠点施設の建設工事に着手いたしております、令和3年度のオープンに向けて鋭意取り組んでいるところでございます。

さらに、来年の東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、本市がホストタウンとなっておりますスペインを始めとする諸外国との交流事業や、国の史跡指定60周年を迎えた大内氏遺跡や開館25周年を迎えた中原中也記念館において実施する様々な企画展や記念事業などを通じまして、本市の歴史、観光、文化等を広く市内外に発信してまいりたいと考えております。

また、県央部の7市町(山口市、宇部市、萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市、島根県津和野町)で連携して開催する、周遊型の「山口ゆめ回廊」博覧会のプレイベント(令和2年度)と本イベント(令和3年度)に向けた準備も進めているところでございます。

山口七夕会の皆様におかれましては、ふるさと山口市の力強い応援団として、引き続き、本市の目指すまちづくりに向け、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山口七夕会の今後ますますの御発展と、会員の皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 祝 辞



山口市議会議長

坂井芳浩

この度、山口七夕会の会報第6号が発行されることにつきまして、心からお祝いを申し上げます。

八木会長様をはじめ会員の皆様が、ふるさと山口を愛し、貴会の活動をとおして相互の交流を図られながら、本市の発展に多大なるお力添えをいただいておりますことに深く敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。

私も昨年の参加に引き続き、本年8月に東京にて開催されました令和の時代における最初の定時総会にも参加をさせていただきました。松村卓正宮司の「令和の時代に大村益次郎を学ぶ」と題しました御講演を拝聴いたしまして、かつて明治維新の策源地として時代の変革の舞台となった本市において、希望に満ち溢れた新たな時代を切り開いてまいるべく決意を新たにするとともに、御参会の皆様の本市に対する情熱と愛着を大いに感じたところで

また、このたび50名の方が山口七夕会の活動をさらに盛り上げるために新たに創設された「山口七夕ふるさと大使」として委嘱されました。

大使の皆様には、山口七夕会の活動をとおして、これまで以上に本市の魅力をアピールしていただき、イメージアップやシティセールスに御協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、第二次山口市総合計画の2年目となります令和元年度、本市におきましては、「つなぐ 未来創造」予算と位置づけた積極型予算のもと、山口都市核と小郡都市核のそれぞれの特性を生かしたまちづくりを基軸とし、市民の皆様とともに21地域の個性を際立たせた協働による地域づくりに取り組んでおります。

市議会といたしましても、昨今の投票率の低下や地方議員のなり手不足などの課題が問われている中、民意の反映、政策立案や行政への監視を担う議会機能の低下につながりかねない現実を真摯に受け止め、議会活動の効率化や議員活動の活性化のみならず、議会と市民の双方向のつながりや議員の魅力向上に改めて取り組んでまいります。また、本市の歴史にふさわしい都市の風格や、美しい自然環境を保ちながら、質の高い都市機能を新たに加えた山口ならではの定住実現を目指すまちづくりの取り組みが、多くの市民の豊かな暮らしへとつながるよう鋭意努力してまいります。

山口七夕会会員の皆様におかれましても、多彩な人脈を生かした活発かつ戦略的なお取り組みで、市内外の皆様の山口愛が一層大きなものとなり、互いに美しく心を寄せ合う中で、新しい令和の文化が生まれ育ちますよう、さらなる御支援、御協力を賜りますよう重ねてよろしくお願いいたします。

終わりに、設立20周年の節目を迎えられた山口七夕会が今後益々御発展されますことを祈念いたしますとともに、会員の皆様のなご一層の御多幸、御活躍を念願いたしまして、お祝いの言葉いたします。



山口七夕会創立 20 周年記念特別寄稿 『山口七夕ちょうちんまつり in 世田谷』

マゴシランドメックス(有)代表取締役 馬越 尚史

そのプロジェクトは、突然始まった！ 山口商工会議所青年部(以下、山口 YEG)の平成5年度(1993)会長に決まった山内進氏((有)ハート&ハート社長)が唐突に、「山口七夕ちょうちんまつりを東京で再現して山口をアピールしたい！」と言い出したためだ。山口 YEG 内に実行特別委員会が組織され、委員長にプラザホテル寿専務(当時)の木村太一郎氏と副委員長に馬越工業常務(当時)の馬越尚史が任命され、なんのコネも予算建もないまま、そのプロジェクトはスタートした。

4月の年度初め。まずは県庁、市役所への役場回り、続いて観光協会等を挨拶がてら回るも、肝心の候補地の見当もつかないまま、とりあえず有志3人で上京。商店街を中心に開催場所の物件探しを試みた。その結果、知名度では「麻布十番」、アーケードという立地条件で「吉祥寺」が候補となり、商工会議所を通じて打診を行うと、全く予想していない問題で取り付く島もなく断られた。即ち消防法の問題である(山口の場合、消防法ができる以前の室町期からの祭りであるためと、それが原因となる大火がなかったため、大目に見られたものと思われる。)。『七夕ちょうちんまつり』という火のついた提灯を竹につるして商店街を飾るなどもっての他である！との回答であった。

プロジェクトは行き詰った！ その報告もかねて役所を回ると県庁から、「県がスポンサーを務める日ハムの試合が東京ドームである。そこで火のついていない提灯を飾ることはできるよ！」という提案と、県の目黒の官舎の敷地内ならちょうちん七夕まつりの再現は可能であるとの回答。当時の日ハム戦の集客力は1万数千人程度、県の宿舍もとてもアピール効果のある場所とは言えず、留保はしたが、事業として皆が推進したいという感情になれるものではなく、途方に暮れた。既にカレンダーは5月から6月へとめくれていた。

八方手を尽くす！というのは、このことかもしれない。木村委員長は山口青年会議所(以下山口 JC)にも所属しており、山口 JC の様々な方に相談。山口 JC メンバーに M 氏という某旅行代理店の支店長がおり、M氏は過去の赴任地愛媛県新居浜市でも地元 JC に所属。新居浜市では JC を中心に、東京都世田谷区にて地元



の『太鼓台祭り』を再現したとの話を木村委員長が聞き出した。薫にも継る思いで M 氏から聞いた行事は、『世田谷区民まつり』。M 氏が仲介役となって世田谷区に問い合わせると、良好な返答が。すぐさま木村委員長は上京し、本当のろうそくに火を灯す祭りであることや、歴史、経緯を世田谷区役所でプレゼン。区長決済で即刻 OK であると。

漸く開催場所が決まった。しかし、JRA 馬事公苑での『世田谷区民まつり』は8月初旬。時は既に6月半ば。それから大急ぎで木村委員長を中心に、企画、予算、地元関係の挨拶と調整を行った。予算は総額約 400 万円。提灯は親会議所から贈呈してもらい、竹は自分たちで切り出し、更に大半は山口 YEG の年度予算と先輩方が蓄えていた基金の取り崩しで、先輩方へご挨拶回り。足りない部分は参加者負担で了解していただいた。県、市、観光協会、旅館組合にも企画書を持参し協力をお願いしてご支援をいただいた。中でも山口市は当時吉田前副市長が商工観光課長であり、「良い企画であり一年で終わらせるのはもったいない。市でも補助するので、あと3年(計4年)やって欲しい。」主旨の支援のお申し出をいただいた。これがその後も世田谷区民まつりで『山口七夕ちょうちん』の再現を続けられる一因となった。山口 YEG には様々な産業や規模の会員がいたが、誰もが気軽に会社や店を休んで上京し数日間活動できる身分ではなかった。(当然、会員の中には、この派手な事業に反対者もいた。)。そこで、事業参加機会創出と予算削減を兼ねて、つてを頼って竹林で切り出しから剪定作業を山口 YEG に募ると多くの会員が道具やトラックの提供も含め協力してくれた。それから、何度も現地写真を見ながら、竹の見栄えの良い設置方法や着火の手順、少しでも資金繰りを良くするための物産店の段取り、PR タイムでの衣装や出し物など、思いつくまま準備していった(初回で訳も分からず、やみくもにスケジュールを埋めた。実際、KRY にお願ひして、日テレ「ズームイン朝」のエンディングでのアピールやローカルニュースの報道もしてもらったが、相当な疲労の元ともなったため、2回目以降は休止した。)

いよいよ7月下旬。必要品や物産をチャーターしたトラックに積み込み、出発の日を迎えた。平成5年の世田谷区民まつりは、7月31日(土)、8月1日(日)の両日。山口 YEG の先発隊は、荷受けと竹の事前設置のため、7月29日(木)に会員6名、事務局1名で山口宇部空港を出発。予定通り現地入りし、トラックの荷受けを行い、竹の設置(現地の樫並木にゴムチューブで竹をスクエアに4本固定する。)も無事完了した。翌金曜日に後

発隊 10 名程度と市職員、ミス山口も合流し、ちょうちんの設置(約 2000 個?)と物産展準備も難無く完了したところで、悲劇が待っていた。

それは、突然の夕立であった。上手く『七夕ちょうちん』が再現できそうだと感じていた提灯は、アッと言う間におぼけちょうちんと化し、取り除く手や T シャツなどの衣類は紅で真っ赤に染まった。やっとの思いで取り付けた提灯をゴミ袋に入れるときの情けなさは、本当に悲しいものがあった(余りに汚れたため、タクシーはあきらめ馬事公苑から渋谷へバスにて移動したが、体中真っ赤に染まった集団は、他の乗客から異様な目で見られたのは思い出深い!)。幸いにして、屋外開催というリスクに留意した予備の提灯があり、翌朝は5時起床、6時集合で提灯付けに専念。なんとか 10 時開始に間に合わせた(区長による「暑い暑い区民まつりの開会宣言」に間に合わせたことは、本当に安堵した。)



それからは快晴に恵まれた。夕刻 19 時には、区長をはじめ来賓者の『ちょうちん火つけ式』を行い、2000 個のちょうちんに点火。好評を博した(自分たちが設置した美しい『山口七夕ちょうちん』の再現に、山口 YEG のメンバー自体が、感無量となり、しばしホッとしながらみとれたものである。余談であるが、七夕ちょうちんの下で繰り広げられる区民まつりの出し物としての「阿波踊り」や「江戸神輿」は、これまで『静』の祭りであった地元の祭りの意義や、反対に様々な融合の可能性も感じられた。)。本当にあの夕立は、神々の試練ではなかろうか?と思わせるほど、その後は晴天で、土日のその他の PR 事業も順調に

こなしたが、唯一不調だったのが資金稼ぎに欲張った山口土産中心の物産事業であった。但し、最後に世田谷区役所からリヤカー部隊がやってきて大量に買っていきってくれたことが本当に有難く、また、『七夕ちょうちん』を評価してくれた証とも受け取れ感謝した(翌年からは、物産は大幅に縮小した。但し、テントがなくなると色々と備品・準備に支障があるため、半分のスペースは観光展示物を置き、物産は飲料を中心に最小限とした。)

それからは災難もなく、平成6年、7年、8年と山口市から予算支援を頂き、相変わらず予算軽減と山口 YEG 全体事業としての竹の伐採、剪定などの地元準備は自らの手で行いつつ、わずかずつ運営にも慣れていった。その間、地元の TV 局や新聞等マスコミにも取り上げられて、地元内外でも評価され、好評のうちに世田谷でのちょうちんまつり再現事業は予定通りの4年で幕を下ろした。最後に世田谷区役所に事業終了の挨拶に行くと、区長をはじめ大変驚かれ、残念がられたが、翌年は当然「世田谷祭り」には参加せず、地元の山口のみで、ちょうちんを灯していた。ところがである。その翌年、驚いたことに世田谷区の方から予算を付けるから世田谷区民祭りで「山口七夕ちょうちんまつり」を再現してもらえないか?という依頼があった。恐らく、世田谷区の皆さんも我々の感じた美しい七夕ちょうちんの下で繰り広げられる「神輿」や「阿波踊り」があまりにも良い光景で、ちょうちん七夕が無いと物足りなくなってしまうのであろう!それ以降、約 10 年にわたり、山口 YEG は再び『世田谷区民まつり』に参加し、世田谷区にちょうちん七夕の竹を刺すための穴まで歩道に設置して頂いたと聞く。自分たちのプロジェクトが大きく評価され、また、他の事業にまで影響を及ぼすことが出来たのは、大変光栄なことだと感じる思い出深い事業となった。また、やれば出来ることを教えてくれた山口 YEG のメンバーにとって「事業計画・予算」「人、モノ、金」、「PDCA」等々と経営に必要な実践的な研修ともなった。



以上、乱文失敬、また多少の記憶違いもあるかも知れないが、これが『山口七夕ちょうちんまつり in 世田谷』のノンフィクションである!!

☆今年、創立 20 周年を迎えた山口七夕会。その原点は、馬越さんたちが世田谷の馬事公苑で、汗と涙と大雨にまみれながら灯した「七夕ちょうちん」にあります。その魂の灯は、明日へと歩みを進める山口市の道筋を照らす灯に違いありません。



## 令和元年度定時会員総会（報告）

副会長・本部長 梶山 俊哉

令和時代を迎えて初めての、しかも七夕会創立20周年という記念すべき年の定時会員総会を、令和元年8月3日(土)14時30分より、山口県ゆかりの日立金属高輪和彊館にて82名の会員参加のもと開催しました。

石田副会長の司会で開会した総会は、八木会長の挨拶に続き、会則に則り、八木会長を議長に選出して議事に入りました。

今年の総会は三部構成となっており、まずは会則の変更、役員選任が承認され、続いて以下の全ての議案が承認され第一部、第二部を終了。そして第三部においては、来賓の渡辺市長様からご挨拶と市政報告(山口市のまちづくり)を、坂井市議会議長様から祝辞をいただくとともに、七夕会に対する功労者表彰、山口七夕ふるさと大使の委嘱が行われるなど、創立20周年にふさわしい記念すべき総会となりました。

### ○第一部

議案第1号 会則改訂

議案第2号 平成30年度活動報告

議案第3号 平成30年度収支決算及び監査報告

議案第4号 令和元年度会長選任

議案第5号 令和元年度評議員選任

議案第6号 令和元年度監査役選任

### ○第二部

議案第7号 副会長指名

議案第8号 顧問指名

議案第9号 本部役員紹介

議案第10号 ふるさと山口本部役員紹介

議案第11号 令和元年度事業計画・予算説明

### ○第三部

山口市長挨拶及び市政紹介

山口市議会議長祝辞

創立20周年記念行事

・功労者顕彰及び受賞者代表挨拶

・「山口七夕ふるさと大使」任命及び代表者挨拶



【石田副会長】 【梶山副会長、渡邊副会長、八木会長】



【渡辺市長】



【坂井議長】

総会の締めにあたり、野原山口県東京事務所長より創立20周年にあたってのご祝辞とご挨拶をいただきました。

【野原山口県東京事務所長】



【総会全景】

総会に続いては、大村神社の松村卓正宮司による講演「令和の時代に大村益次郎を学ぶ」。大村益次郎の二つの誕生日や四つの名前の謎に始まり、軍神と呼ばれた益次郎が、実は教育者と呼ぶべき人物であると、慣れ親しんだ大村益次郎像とは一味違う益次郎について語っていただきました。令和という新しい時代にふさわしい講演に、参加者は大いに感銘を受けました。



【松村宮司】

【懇親会レポート】 本部副幹事長 藤井 謙志

夕方になり和彊館のあたりの気温も幾分下がったところ、山口七夕会 奥原副会長による開会宣言の後、山口市役所 財間参与による乾杯のご発声により、盛大な懇親会がスタートしました。会場には山口市役所の皆様による「ふるさと産品」即売会ブースや山口出身ミュージシャンである山口蘭子さん、ちひろさん、関周さんのCD、グッズ即売会ブースも用意されました。

山口市観光交流課と金光酒造からは薩摩のお米を山口の金光酒造が醸造した日本酒による薩長連合“ふれんど”というお酒も差し入れられ皆さん旧交を温めつつ、大いに盛り上がりました。懇親会の中では、戦前から今日までの山口市の写真画像も投影され、世代を越えてノスタルジーに浸る場面もございました。終盤では山仲さんグループによる合唱、山口蘭子さん、ちひろさん、関周さんにそれぞれ歌をご披露頂き、最後は恒例となりましたちひろさんによる「ふるさとの風～山口市民の歌～」を参加者全員で合唱し、武内副本部長に締めをして頂きました。山口市役所からは、参加者全員へのお土産として「SL やまぐち号」40周年記念のサッポロ黒ビールが配られ、次回の再会を約して散会となりました。

今回は山口七夕会本部役員の交代もあり新体制での総会開催となりました。初めての総会/懇親会開催となり、行き届かない点多々あったかと存じますが何卒ご容赦の程をお願い致します。総会では山口市渡辺市長からの「山口七夕ふるさと大使」委嘱もあり、山口七夕会会員の皆さんとともに山口市応援隊としての活動を進めて参りたいと思いますので、引き続きよろしく願い申し上げます。



【財間参与】



【市役所ブースの皆さん】



【周さん&蘭子さん】



【ちひろさん】





令和元年8月3日施行 山口七夕会会則改訂

【改訂の主たる点】

1. 七夕会の目的(第2条)の第1項を「郷土山口市の発展に寄与する」と明確にする。
2. 「ふるさと山口本部」の位置づけを明記(第3条)
3. 山口市と「本部」「ふるさと山口本部」三者の正式な協議・審議・意思決定機関として「評議員会」を設置する(第7条、第11条)
4. 機関・役職名等の呼称変更

【改訂対象となった条文(新条文を掲載)】

(目的)

第2条 本会の目的は、次のとおりとする。

- (1) 郷土山口市の発展に寄与する。
- (2) 会員相互の親睦を図り、教養を高める。
- (3) 上記各号に付帯する諸活動を行う

(本部および支部)

第3条 首都圏に「本部」を置く。山口市と本部の支援組織として「ふるさと山口本部」を置く。

- 2 新たな本部および支部の設置は、総会の承認を得なければならない。  
(年次会員総会)

第6条 本会は、毎年1回原則として7月又は8月に総会を開催する。

- 2 前項に定めるほか必要がある場合は、臨時会員総会を開催することができる。
- 3 総会は、会長が招集し議長となる。
- 4 総会の決議は、出席会員の過半数をもって決する。
- 5 総会においては、本会則に定めるもののほか次の事項について決議する。

- (1) 事業報告および決算の承認
- (2) 事業計画および予算の承認
- (3) 会則の変更
- (4) その他評議員会が定める事項

(評議員および監査役)

第7条 本会は10名以下の評議員を総会にて選任する。評議員は評議員会において本会則に定める重要事項の審議・決議を行う。

- 2 本会は2名以下の監査役を評議員会の推薦により総会にて選任する。監査役は本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 3 評議員および監査役の任期は、選任の翌々年に開催される総会終了の時までとする。但し、再任を妨げない。

なお、増員または補欠により選任された評議員および監査役の任期は、それぞれ他の現任評議員および監査役の任期と同じとする。

(会長)

第8条 総会の決議により会長1名を定める。

2 会長は、会務を統括し本会を代表する。

3 会長の任期は、選任の翌々年に開催される総会終了の時までとする。但し、再任を妨げない。

(副会長および顧問)

第9条 会長の指名により評議員の中から副会長および会員の中から顧問各若干名を置くことができる。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時はあらかじめ会長が指定した順位によりこれを代理する。

3 顧問は会長の諮問に応じて会長に助言する。

(本部長)

第10条 会長の指名により評議員の中から本部本部長を置く。本部長は本部を代表・統括し会務を処理する。

2 ふるさと山口本部の本部長以下の役員は評議員会で承認し、総会に報告する。

(評議員会)

第11条 評議員会は総会前に開催し、会長が招集し議長となる。

2 評議員会は会長・評議員および山口市役所代表を議員として構成する。監査役および顧問は評議員会に出席して意見を述べることができる。

3 評議員会の決議は、出席議員の過半数をもって決する。可否同数の場合は会長がこれを決する。

4 評議員会は、本会則に定めるもののほか次の事項を審議・決議する。

(1) 予算および決算、事業報告および事業計画案

(2) 会則の変更案

(3) 総会に提案する事項

(4) 会長から提案された事項

(5) 会務の処理に関する細則

(6) 予備費の支出

(7) その他重要事項および緊急事項

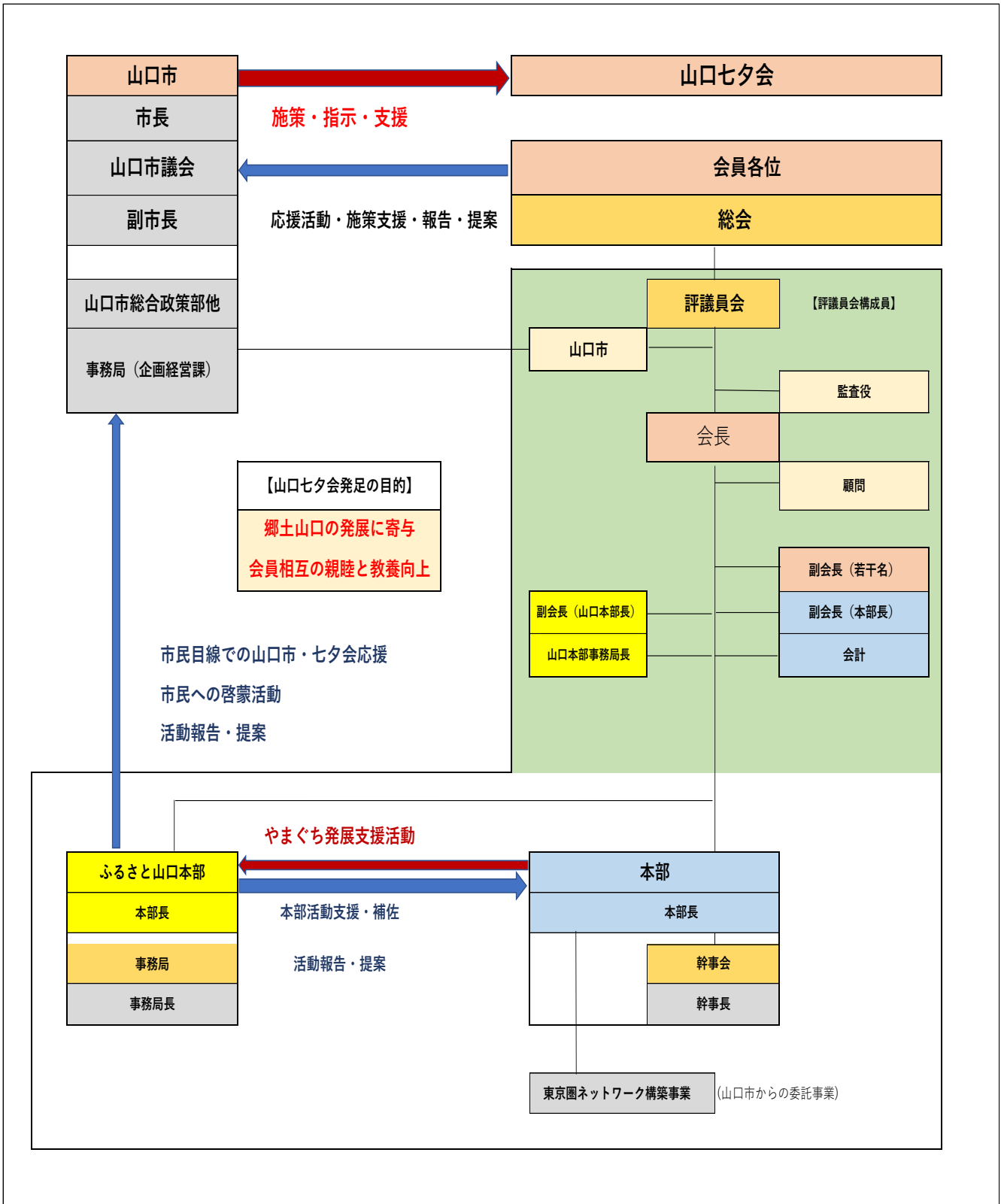
(事務局)

第15条 本会の事務局は、山口市企画経営課にこれを置く。

2 本部に会務統括事務局として幹事会を置く。幹事長以下の幹事は本部長の指名により評議員会で承認し、総会に報告する。



山口七夕会運営基本方針・組織関係図(令和元年8月3日～)



役員一覧(令和元年8月3日付)

会長・副会長・評議員・監査役・顧問

		役割
会長	八木重二郎	代表、総会・評議員会議長
副会長・評議員	渡邊史信	会長補佐 兼 会長代行
副会長・評議員	奥原 保	会長補佐
副会長・評議員	相山俊哉	会長補佐 兼 本部長
副会長・評議員	瀬川英顕	会長補佐 兼 ふるさと山口本部長
評議員	大田 宗	会計
評議員	吉松 勇	ふるさと山口本部事務局長
評議員	山口市代表	

監査役	大枝幹夫
監査役	竹重高志

顧問	原野和夫	山本和生(在山市)
顧問	石田順康	山口県東京事務所長
顧問	山縣正彦	

本部役員		
本部役職		役割
本部長	相山俊哉(再掲)	会務統括
副本部長	武内衛子	本部長補佐
幹事長	山根和也	本部長補佐
副幹事長	藤井謙志	幹事長補佐
副幹事長	西村弘文	幹事長補佐
幹事	大田 宗(再掲)	会計・経理・予決算・出納
幹事	本多圭子	本部長補佐
幹事	引頭和江	イベント会費徴収責任
幹事	大嶋愛子	公式行事
幹事	田中美旋律	イベント企画
幹事	田村廣修	本部長補佐・広報
幹事	岡本達也	東京圏ネットワーク構築事業
幹事	村中正司	東京圏ネットワーク構築事業
幹事	久家菊美	本部長補佐・東京圏ネットワーク構築事業

ふるさと山口本部役員		
		ふるさと山口本部役職
副会長・評議員	瀬川英顕(再掲)	本部長
	申神正子	副本部長
評議員	吉松 勇(再掲)	事務局長
	瀧野文彦	事務局長補佐
	山下大輔	事務局長補佐 兼 会計
	伊藤満宏	本部長補佐
	関 和貴	事務局・楽農部会長
	嘉瀬 修	事務局・日本酒部会長
	坂本哲也	事務局・音楽部会長
	村田常雄	事務局
	中野邦夫	事務局
	仙田達夫	事務局
	松西照美	事務局
	庄栄一郎	事務局
	杉本理恵子	事務局
	原田茂樹	監事
	国光文夫	監事
	吉田正治	ふるさと山口本部顧問
	吉田充宏	ふるさと山口本部顧問
	山本和生(再掲)	山口七夕会顧問
	山下憲治	アドバイザー



## 「功労者表彰」

山口市の魅力を広く発信し、応援し、発展に尽くしてきた山口七夕会の創立 20 周年に際し、10 年以上の長期間にわたって七夕会の役員を務められた皆様が山口市より表彰されました。8 月 3 日の定時総会において、受賞者代表の石田順康顧問に渡辺市長より表彰状が授与されました。受賞された皆様は次の通りです。長きに渡り有難うございました。

原野和夫様（平成 11 年から 20 年までの間、初代会長を務められました。）

山本和生様（平成 11 年から 20 年までの間、初代幹事長を務められました。）

石田順康様（平成 17 年から 30 年までの間、副会長を務められました。）

山縣正彦様（平成 21 年から 30 年までの間、幹事長を務められました。）



## 「山口七夕会 20 周年記念事業(担当:功労者 山縣顧問)」

**= 「山口七夕会 20 周年記念事業」 =**  
**「会員章 (ピンバッジ)」大募集!**  
**100 個ロット! の発注 @ 2,000 円**  
**(100 個未満 → 事業中止!)**

山口七夕会は、今年 2 月 6 日で設立総会から 20 周年を迎えました。

これを記念して、『会員章』を作成します。デザインの公募に応募はありませんでしたので、今後、山根本部幹事長にデザインをお願いして、企画書を決定します。なお、山根本部幹事長のこれまでの会旗などから会員章イメージしてみました。

○募集締め切り: 令和元年 10 月 31 日(木)

○メールか携帯電話で、お名前と個数をお知らせください。  
具体的にはお問い合わせください。

担当: 顧問 山縣 正彦

yamagata1954@utopia.ocn.ne.jp

090-9954-7746



《会員章・イメージ》

「東京オリンピック・パラリンピック」のピンバッジのサイズを予定しています。フルカラーです。

## 「山頭火と私」

顧問 石田 順康(会員No.189)

自由律の俳人種田山頭火は、昭和7年9月から6年あまり、小郡町矢足の其中庵に住んだ。昭和11年に小郡の駅前旅館で生まれた私は、記憶にはないが、山頭火を見たことがあったのだ、と思っている。

種田山頭火(本名 正一)は、明治15年に防府で出生。松崎小学校から周陽学舎(いまの防府高)に進んだ。明治33年、山口中学(いまの山口高)の4年に編入、第7期生として卒業後、東京専門学校(のちの早大)

に入学。35年に早稲田大学英文科に進学したが、神経衰弱を理由に中途退学し療養のため帰郷した。23才であった。其中庵跡に自然石の句碑がある。



「はるかぜのはちのこひとつ」

山頭火が師事した俳句結社層雲派の荻原井泉水が選び、没後10年の昭和25年に建てられた。ひと頃の山頭火ブームで全国各地に句碑があるが、ごく初期のもの。当時、小郡中学の新聞部員であった私は父の友人であり山頭火と親交のあった駅弁会社の友澤さんにお願ひし、学校新聞に句碑建立のいきさつを寄稿して頂いた。また、友澤さんには湯田の湯の香通りにある句碑の創作にかか



わるエピソードがあつて、この句は千人風呂に一緒に入った時にできたのだ、という。

新山口駅の再開発で平成28年に撤去されたが、長く小郡駅前広場に山頭火の銅像が建っていた。

私は、製作者である佛子さんにご縁があり、東京港区のアトリエにも何度かお邪魔したことがある。丸谷才一に山頭火が出てくる「横しぐれ」という絶妙の中編がある。松山の道後温泉で、山頭火とおぼしき坊主に昼酒をたかれる話である。



山頭火には時雨の句が多いが、有名なのは、「うしろすがたのしぐれて行くか」

まるで、映画のラストシーンのようだ。だが、「横しぐれ」という比類なく美しい言葉で詠んだ句は、ない。「横しぐれ」には、つぎの句が出てくる。

「おとはしぐれか」

その落書きを、男トイレで見つけたというケツサクのくだり。この句は、其中庵結庵の年の10月に詠まれており、山頭火自身にも愛着があつたようで「私の一句としては捨てがたいものがある」と述べている。

種田山頭火は、私にとって山高、早大と同窓の先輩であり、誕生日が同じ12月3日なのである。

☆石田顧問は平成17年から平成30年までの長きに渡り、山口七夕会の副会長を務められたご功績により、8月3日の定時総会にて、功労者表彰を受賞されました。



## ～幹事長 10 年を振り返って～

顧問 山縣 正彦(会員No.226)

あれから 10 年！

「令和元年度定時会員総会・創立 20 周年記念行事」において、功労者顕彰「山口七夕ふるさと大使」委嘱を受けた。栄えある顕彰、委嘱であったが体調不良のため、翌日、山口市・企画経営課・今井課長から渡邊副会長立ち合いの下に授賞、委嘱を受けた。これも会員、役員の皆様のご支援・ご協力の賜物、感謝申し上げます。



平成 11 年(1999 年)2 月、原野和夫・初代会長をはじめとする在京の山口市ゆかりの方々の熱意と山口市役所が事務局を担う協力のもと、「山口七夕会」は誕生しました。5 年に及ぶ山口市商工会議所青年部と山口市観光課の「世田谷区民まつり」での「山口七夕ちょうちん」の実物展示や山口市特産品の販売会などの活動が積み重なったものです。会場は、馬事公苑、吉田松陰先生を祀り、墓所のある松陰神社も世田谷区内にあります。

平成 21 年(2009 年)6 月のある日、山本和生・初代幹事長より突然の次期幹事長就任の要請があり、諸般の事情により、やむなく受諾した。夏の定時会員総会にて、第 2 代・八木会長のもと新体制がスタート、第 2 代幹事長に就任した。

さっそく、お盆の帰省の際に、山口市役所事務局を訪問し、10 年の歴史と今後の活動の確認を行った。驚いたことに、山口市役所事務局では山口市から補助金を得て、講演会の講師謝金などの活動を支えて来られていた。「交流と懇親 10 年」の歴史であった。

また、今後の活動について、私の「基本的に『東京のふるさと会』ですよ。」、という問いかけに、担当者は、「山縣さん、会則には何も規定がなく、全国からアジアへ活動の場を広げてくださ

い。」とのこと！やる気に火が付きまして！「自分が楽しくなければ！」をモットーに活動して行くことを決意しました。

まずは、年 2 回の会員交流会、夏の定時会員総会をベースに、10 年後の山口七夕会の姿を思い描き、「山口七夕会 2020 ビジョン」の策定に着手しました。アンケートをもとに会員のみなさまの意見、幹事会の議論を経て、平成 22 年(2010 年)の定時会員総会に諮り、承認されました。

「山口七夕会 2020 ビジョン」は、～祭りと絆で原点回帰～<『ふるさと山口』を絆に人と情報交流の 10 年計画>として、1.ふるさと山口への交流と拡大 2. 会員拡大(新市域への拡大) 3. 女性・若い世代の参画と& 世代間・地域間の交流、を目標に活動を展開してきましたが、道半ばです。

今年度の会則改訂、組織改革、新たに設けられたた「山口七夕ふるさと大使」制度などの取組は、さらなる人と絆の交流促進が期待されます。来年が最終年度の『山口七夕会 2020』ですが、ビジョンの達成度などを検証し、令和の時代の新たなビジョンにつなげて行っていただければ幸いです。

ふるさと山口本部においても支部(会員数 30 名)発足、山口本部(会員数 100 名)を経て会員数も 180 名(法人会員含む)を超え、講演・交流会をはじめ、レベルの高い「音楽祭 輪-Rin-」、山口市の食材と地酒を堪能する「酎-Takenawa-祭」、楽農部会の年間を通じた田植え、稲刈り、地域との交流会を展開していただいています。今後は平成の大合併により誕生した新市(1 市 5 町)、21 地域協議会に会員を拡大するなど山口市の発展に貢献いただければ幸いです。

私は、山口七夕会の会員として、誇りと使命をもって、山口市の魅力を広く発信し、市のイメージアップやシティセールス等の取組に積極的に取り組んでいきます。

☆山縣顧問は平成 21 年から 30 年までの間、幹事長を務められたご功績により、8 月 3 日の定時総会にて、功労者表彰を受賞されました。

## 「山口七夕ふるさと大使」の委嘱

山口七夕会では、令和元年の創立 20 周年の節目に当たり、「七夕会の会員の中から七夕会が定める基準に基づき推薦する会員を、山口市長より大使として委嘱していただくことで七夕会の活動を更に盛り上げていく」ことを山口市に提案。「山口市の魅力を広く発信することなどにより、山口市のイメージアップやシティセールス等の取組について、積極的に取り組む」役割を担う「山口七夕ふるさと大使」の委嘱をご承認いただきました。

8 月 3 日の山口七夕会定時総会においては、大使委嘱者の代表者として、歌手の山口蘭子さん、ちひろさん、関周さん、会員代表の久永洋子さん、山根和也さん、藤村幸絵さんに渡辺市長より委嘱状が授与されました。

続いて山口蘭子さん、久永洋子さん、藤村幸絵さんから大使としての抱負が述べられ、渡辺市長からは、ふるさと山口市の更なる魅力向上への取組に際し、七夕会と山口七夕ふるさと大使への協力を要請するメッセージが伝えられました。

以下、委嘱状授与式風景、山口七夕ふるさと大使リスト、「山口七夕ふるさと大使」設置要綱、山口七夕会による「山口七夕ふるさと大使」候補者選考基準を掲載します。





山口七夕ふるさと大使(令和元年 8 月 3 日委嘱)

【歌手の皆さん】

会員番号	会員名
583	山口 蘭子
686	ちひろ
726	関 周

平成21年度

360	野村 邦武
363	山仲 秀子
366	平 和俊
367	利重 尚義

【一般会員の皆さん(入会年度別)】

平成10年度

20	富田 捷治
42	板藤 滋
69	重宗 雄造
79	山本 直和

平成22年度

378	藤村 啓
382	松本 和江
384	山根 洋平
385	三好 正信
399	高木 俊彦

平成12年度

122	蔵成 洋三
136	小口 ゆい
142	森脇 幸治

【幹事団の皆さん】

会員番号	会員名
39	山根 和也
52	八木 重二郎
83	原野 和夫
219	武内 衛子
226	山縣 正彦
312	大嶋 愛子
318	竹重 高志
330	奥原 保
340	引頭 和江
364	渡邊 史信
416	大枝 幹夫
419	原 早苗
424	大田 宗
438	田村 廣修
464	西村 弘文
579	椋山 俊哉
601	久家 菊美
611	藤井 謙志
670	岡本 達也
706	村中 正司
753	田中美旋律

平成15年度

204	佐々木 幹生
-----	--------

平成16年度

209	金子 成彦
228	児玉 秀文

平成17年度

232	久永 洋子
248	末貞 哲郎
274	藤井 邦夫

平成18年度

289	品川 征志
-----	-------

平成19年度

311	小野 美穂子
325	藤村 幸絵

平成20年度

346	白鹿 敦己
-----	-------

「山口七夕ふるさと大使」設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、山口七夕会の会員（以下「会員」という。）のうち、山口市（以下「市」という。）の魅力を広く発信すること等による市のイメージアップ、シティセールス等の取組について、特に積極的に取り組む者を「山口七夕ふるさと大使」（以下「大使」という。）として委嘱することについて、必要な事項を定めるものとする。

(大使の役割)

第2条 大使は、次の各号に掲げる会員の活動について、特に積極的に行う役割を担う。

- (1) 市の魅力を広く発信すること等による市のシティセールスの推進活動
- (2) 市の文化、芸術、スポーツ等の発展又は振興に資する活動
- (3) ふるさと山口寄附金の促進に資する活動
- (4) 市への企業誘致に資する活動
- (5) 市への移住定住の促進に資する活動
- (6) 市への定住人口、交流人口又は関係人口の拡大に資する活動
- (7) 市内事業者の東京圏等における活動（進出、出店、出品等）の拡大に資する活動
- (8) 会員の持つスキルの市へのフィードバックに係る活動
- (9) その他大使の活動として市長が特に必要と認める活動

(委嘱)

第3条 市長は、会員の中から大使を委嘱する。

- 2 委嘱に先立ち、山口七夕会会長は、会員の中から、山口七夕会が別に定める基準に照らして特にふさわしいと認める者について、「山口七夕ふるさと大使候補者」として市長に推薦するものとする。
- 3 市長は、山口七夕会会長から前項の推薦があった場合において、当該推薦された者を適当と認めるときは、大使として委嘱するものとする。

(任期)

第4条 大使の任期は、5年間とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 大使は、任期の途中であっても、市長に申し出て退任することができる。
- 3 市長は、特別の理由があると認めるときは、任期の途中であっても大使を解嘱することができる。

(報酬等)

第5条 大使に対する報酬は、支給しない。

- 2 市は、大使の活動に資するため、次に掲げるものを支給する。
  - (1) 市政に関する情報誌等
  - (2) その他市長が特に必要と認めるもの

(庶務)

第6条 大使の委嘱に関する庶務は、総合政策部企画経営課において処理する。

(補則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、大使の委嘱等に関して必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和元年8月3日から施行する。

## 「山口七夕ふるさと大使」候補者選考基準

(趣旨)

第1条 山口七夕ふるさと大使設置要綱（令和元年8月3日山口市制定。以下「要綱」という。）第3条第2項に規定する「山口七夕会が別に定める基準」は、以下に定めるところによる。

(要綱第3条第2項に定める候補者の選考基準)

第2条 山口七夕ふるさと大使（以下「大使」という。）の候補者の選考は、山口七夕会の会員のうち、次の各号のいずれかに該当するものについて行うものとする。

- (1) 山口市作成の毎年3月末時点の会員名簿に掲載されている、10年以上の会員経歴を持つ者であって、原則として山口市外に居住する者
- (2) スポーツ、教育、文化、芸術、芸能、福祉、経済界、国際社会等の分野において国内外で広く活動している者
- (3) 山口七夕会の役員（会長、副会長、評議員、本部長、幹事長、幹事、監査役等）の職にある者又はあった者
- (4) 広く山口市のシティセールスに資する活動をしている者
- (5) 山口市功労者顕彰受賞者
- (6) その他会長が特に認める者

(推薦)

第3条 会長は、前条の基準に該当する会員について適当と認めるときは、本部幹事会に諮った上で、当該会員を候補者として市長に推薦するものとする。

(大使の解嘱)

第4条 会長は、市長が要綱第4条第3項の規定に基づく大使の解職を行う際の判断材料とするため、大使が次の各号のいずれかに該当する場合、当該大使の解嘱を山口市長に進言するものとする。

- (1) 会員本人が死亡し、又は、山口七夕会から脱会し、若しくは、山口七夕会から除名された場合。なお、山口七夕会の年会費を3年以上未納した会員については、山口七夕会を脱会したものとみなす。
- (2) 公序良俗に反する行為その他大使にふさわしくないと会長が認める行為等があった場合

(大使称号の使用)

第5条 大使を委嘱された会員は、委嘱期間内に限り、大使の称号を名刺・電子媒体・著書・本人履歴等に任意の字体・デザインで使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この基準は、令和元年8月3日から施行する。

(改廃手続)

- 2 この基準の改廃は、会長決裁の後、山口市長の承認を得て行う。



## 「山口ゆめ花博ツアーに参加して」

山口七夕ふるさと大使・久永 洋子(会員 No.232)

4日間、晴天に恵まれ友人と楽しく参加、無事終了した今、満足感に浸っています。企画、実行された山縣元幹事長また多くの方々に心から御礼申し上げます。

### 【1日目(10月19日)金曜日】

ゆめの花博では、花の谷ゾーンから始まった。ブラックパール、金賞、銀賞に輝いた匂いのない小振りのユリとか、ベチュニア、ピンカ・タトウ(日々草)、ビックブルー(サルビアの大きなもの)等々の新種、珍花等の花々が彩りよく優雅に風にゆれていて、「お帰りなさい」と温かく優しく迎え入れられた。次は、維新体験館に入る。ここでの一番の感動は、バーチャルリアリティーでの体験である。松下村塾の吉田松陰先生が私の目の前に進み出られて指をさされ「あなたです。あなたがやるのです」と言われると実感に迫られその気にさせられる。実際に松下村塾での熱気が伝わるという素晴らしい企画である。是非、多くの青少年に見せたい場所である。



山口への帰りの道すがら虹を見る。はっきりと七色が美しかった。幸いの前兆だと歓声が上がった。山水園の庭園の見事さ、これ程の庭園を私は今まで見たことがないと云いたい程の驚きがあった。極上の幸せを深く感じた日でした。夜、山水園にて交流会あり。渡辺市長はじめ幹部の方々、山口七夕会のふるさと山口本部の皆様と近く会話ができて大変良い経験をさせていただきました。ふるさと山口を発展させる為にこれからも私なりに考え努力を惜しまずにと思わず力が入る。年は考えない。今、青春ですよ!!

### 【2日目(10月20日)土曜日】

秋空の中を重源の郷へ入江さん(ふるさと山口本部会員・山口市議会副議長)ご案内、山縣幹事長の運転で出掛けた。重源上人が宋人の技術者等を伴って周防国に帰国、1181年かあら1203年までの約20年の歳月を掛けて巨木の搬出等をした。その搬出の様子をつぶさに知ることが出来た。その時、すべて手仕事に使用した道具、様々な大きさの斧、私が持ち上げることもできない道具を打ちふるって、直径1m以上もありそうな檜を切り倒し、運ぶその姿は、紙人形で造った模型で表現されていた。そのすさまじい重源上人の足跡を知り感動する。

### 【3日目(10月21日)日曜日】

角島と元乃隅稻成神社を観光する。晴天の青と濃い藍色の海と長い美しい曲線の白い橋と赤い鳥居の立ち並ぶ姿とさらに緑の樹々とのコントラストは、まさに絶景。いつか美容院の雑誌で見て、一度は見たいと思っていた願いが叶う。夢の中の絵の様に今も私の脳裏に映し出されている。

角島灯台に登る。狭い内側の階段をぐるりぐると114段上がった。150年の歴史を照らし、150年先の希望を照らすという言葉思い出しながら……。

### 【4日目(10月22日)月曜日】

あいお荘のエビの昼食では、一番先にエビの刺身を一口食べる。シャリシャリと新鮮な歯ごたえの美味しさ!!この一口が、今日の大御馳走!!有難き幸せ。110歳まで長生きしそうだ!!どうしよう!と思わずつぶやく。ご一緒のツアーの皆様、お世話になりました。

☆久永洋子さんには、8月3日の定時総会にて山口七夕ふるさと大使が委嘱され、一般会員の新大使を代表して今後の抱負を語っていただきました。

令和元年度 山口七夕会 ふるさと山口本部 夏の講演・交流会 報告

ふるさと山口本部事務局長 吉松 勇

8月17日(土) 午後6時より、山口市セントコアにて山口七夕会ふるさと山口本部主催の夏の講演・交流会が開催された。山口市内外より山口七夕会会員を中心に70名程度が参加した。

瀬川本部長の開会挨拶の後、山口七夕会が今年で20周年を迎えるにあたり、発足当時の会員である山本和生氏に来賓の伊藤和貴山口市副市長より永年の功績を称える顕彰が授与され、その後の講演会と続いた。

今回のご講演は、幕末～明治の軍略家、大村益次郎を祭った大村神社の松村卓正宮司による「令和の時代に大村益次郎を学ぶ」であった。

松村宮司は、大村益次郎の人となりや当時の社会や後世に与えた影響のみならず、現在の私たちが処世していく上で、多様な視点異なる次元からの解釈と判断が必要であることを多くの実例を用いてわかりやすく説かれた。

例えば、大村益次郎の享年は現在の表記では45歳となるが、江戸時代には47歳と表記されることである。当時は受精のタイミングから出産までの10か月余りを加算し、かつ数え年で

カウントしていたのがその理由とのことであった。その他、「～を学ぶ」と「～に学ぶ」の意味の違いを例に日本語表記の意味深さについても触れられた。

続く交流会では、申神副本部長による挨拶乾杯の後、会場セントコア料理長の特別メニューに舌鼓しながらの参加者間交歓・交流が行われた。

毎回恒例のじゃんけん大会では、セントコアからの差し入れや楽農部会の収穫農作物などを景品に十数回のじゃんけん熱戦が繰り広げられた。最後のスイカの重さ当てクイズでは、その前のじゃんけん大会でスイカをゲットした会員が、見事に重さを言い当ててしまうというハプニングもあった。さすがにスイカ2個は持ち帰れないとのこと、重さ当てクイズの対象であった重さ15キロ余りのスイカを参加者全員で賞味した。

最後に、坂井芳浩市議会議長の中締めで今回の講演会・交流会が締めくくられた。



平成 30 年度 山口七夕会の一年＝活動の記録

【本部】

◆平成 30 年 6 月 16 日(土)第 1 回幹事会  
【議事】

1. 平成 29 年度活動総括
2. 平成 30 年度活動計画
3. 平成 30 年度定時総会準備

◆平成 30 年 8 月 4 日(土)第 2 回幹事会  
【議事】

H30 年度定時総会運営要領

◆平成 30 年 8 月 4 日(土)定時会員総会  
日立金属高輪和彊館にて  
開催(72 名参加)

- 総会
- 講演「こうして・・・地酒は元気になった」  
講師/柏木享氏(やまぐち発酵文化研究所代表)
- 懇親会

◆平成 30 年 12 月 8 日(土)第 29 回交流会



「別邸福の花浜松町店」にて  
開催(52 名参加)

- 講演会「明治維新 150 年& マル住職の 15 年」  
講師/洞春寺・深野宗泉住職
- 懇親会

◆平成 31 年 1 月 19 日(土)第 3 回幹事会  
「花・味兆」にて開催(16 名参加)

【議事】

1. 平成 30 年度第四四半期の役員事業分担とサポート体制
2. 平成 31 年度の役員体制、事業計画の方向性及び課題
3. 年度末に向けての活動計画

◆平成 31 年 3 月 2 日(土)第 30 回交流会  
「別邸福の花浜松町店」にて開催(39 名参加)

- 講演会(卓話)
- ☆「ふるさとの風！～山口の誇り～」  
講師/ちひろ氏(シンガーソングライター)
- ☆「巨大ロボット最前線」  
講師/吉崎 航氏(アステラック株式会社取締役  
チーフロボットクリエイター)
- ☆「風邪は万病のもと、マイコプラズマは風邪症状  
の原因微生物」

講師/松田和洋氏(エムバイオテック株式会社代  
表取締役)

【★協力事業、◆各種活動等】

◆平成 30 年 6 月 2 日(土)レノファ山口応援観戦  
フクダ電子アリーナでのジェフユナイテッド市原戦  
を応援(このほか東京圏でレノファ山口を応援)

★平成 30 年 10 月 16 日(土)～17 日(日)三茶で  
やまぐち食べちやる祭り

山口県東京事務所のイベントで山口市の特産品  
をPR。シティセールスサポート事業として山口市  
経済産業部に協力。

◆平成 30 年 9 月 28 日(金)～10 月 2 日(火)  
オトナの修学旅行 in シンガポール 5 日間(ツアー  
参加者 5 名)

10 月 1 日＝「酒の日」にシンガポールで開催され  
る日本の地酒と食の祭典「KANPAI」(シンガポ  
ール日本人会主催)に参加し交流を図った。

◆平成 30 年 10 月 19 日(金)～22 日(月)東京発  
着「山口ゆめ花博&おいでませ山口」満喫ツアー  
(ツアー参加者 7 名)



花博盛り上げ隊を結成  
し、花博訪問をはじめ、  
ふるさと山口本部の交  
流会「酎祭」や阿東徳  
佐での稲刈りイベント  
に参加した。

◆平成 30 年 11 月 9 日(金)ゴルフ同好会  
第 1 回ゴルフコンペ(八木重二郎杯)開催(参加者  
10 名)。

◆平成 30 年 11 月 28 日(水)カラオケ同好会  
「ミュージカンテあまね」  
にて開催(参加者 10 名)



◆平成 31 年 2 月 15 日(金)大人の社会科見学「防  
衛省 2」(参加者 10 名)

◆平成 31 年 3 月 30 日(土)散策同好会  
お花見ウォーク&懇親会(参加者 13 名)



平成 30 年度山口七夕会ふるさと山口本部活動報告

ふるさと山口本部事務局長補佐 濱野 文彦

ふるさと山口本部では、平成 30 年度の主な事業として 8 月 3 日に洞春寺 深野宗泉住職を講師に「明治維新 150 年&マル住職の 15 年」と題した講演・交流会、10 月 20 日に笑福亭枝鶴 師匠をゲストに山口の地酒や食材を落語と共に楽しむ「酎-takenawa-祭」を開催しました。

本来の活動報告であれば日時や場所、参加人数などの報告にはじまり、会の流れや様子を粛々と述べていくべきですが、様々な行事に追われ日々薄れゆく記憶の中で、一年前の内容を詳細にまとめる自信ありませんので、昨年度のふるさと山口本部における活動の所感や山口七夕会への個人の想いなど述べさせて頂ければと思います。

なお、念のため確認したところ、ふるさと山口本部の活動記録については、各期に発行されている七夕会通信に既に記事があり、総会においても事業報告がされていることから、今回、改めての活動報告は内容も重複し、記事を読まれる方も、その方が少しは面白いだろうと思慮致しました。

まず、個人的に思い出が深いのは、台風で延期となった夏の講演会です。当初は 7 月 6 日に開催を予定しておりましたが、台風による悪天候により延期された 8 月 3 日には前回を超える 86 名の参加がありました。

また、昨年度は色々な意味で「節目」の年であったと思います。明治維新 150 年という言葉もよく聞かれましたし、「平成」から「令和」への時代の変化、七夕会も設立 20 周年ということで取り組みを進めているところです。

「明治維新」は「明治革命」とは言いません。「維新」という言葉は、大学の「周は旧邦と雖も其の命、維れ新なり」が出典で「周は旧い国であるがその命は常に新たであり、いかなる場合も常に古びることはない」といった意味となります。人間の肉体や生命活動も絶えざる創造・変化の「順命」「維新」ですが、一方「革命」は易の革の卦から出ており、「非常の命」「断絶」ですから、国体が順当に進んでいる我が国では「革命」ではなく「維新」という言葉を使います。

山口本部は、平成 24 年度に支部設立後、平成 26 年

度総会の決議に基づき「支部」から「本部」へと変わり、現在は、「ふるさと山口本部」に名を変え、楽農部会をはじめ山口の特性を活かした様々な事業を通じて、ふるさと山口市の魅力を県内外へ情報発信し、山口市の発展に寄与する取り組みを進めております。

ふるさと山口本部は設立当初、会員の中からも様々なご意見や諸先輩方から直接、ご質問を受けることもありました。しかし、現在では東京と山口の両輪となり様々な事業を展開し、山口七夕会の役割・機能を果たすことで、会員の皆様の理解も深まり、その様なことも少なくなりました。

これまで「ふるさと山口本部」の設立から発展に非常に熱心に取り組まれた山縣正彦元幹事長の数年前を見据えた見識に敬服すると共に、この 7 年間「正彦」と「文彦」で連携し、微力ながら私もお手伝いできたことを誇りに思っております。

平成 24 年 9 月 26 日の七夕会通信の会員紹介コーナーの記事で、私は「世代間交流」と「孝」について述べさせていただきました。「孝」は「老」と「子」の連続性、統一を表し、「明治維新」の成功も高杉晋作や伊藤博文などの若い力だけでなく、周布政之助や白石正一郎といった年長者の力が上手く組み合わさった結果だといえます。

気がつけば私自身、間もなく「初老」と呼ばれる歳となり、今回、改元のタイミングにあわせ事務局長退任のお許しをいただきました。後任の吉松事務局長は私より年長者ではありますが、バイタリティに溢れ、むしろ気持ち的には私より若いかもしれません。(なお、私も当面は事務局長補佐として、引き継ぎの任にあたります。)

最後に、変化の中で発展を遂げたアメリカの GE は、変化を拒み衰退した GM とよく比較されますが、チャールズ・ダーウィンの「唯一生き残ることができるのは変化できる者」という言葉は、正しいのだと思います。

今後の山口七夕会も更に進化・発展していく組織であることを願い、私の報告とさせていただきます。

令和元年度 山口七夕会 ふるさと山口本部 第5回音楽祭 「輪-Rin-」 報告  
ふるさと山口本部 音楽部会長 坂本 哲也

5月25日(土)午後6時30分より、ポルシェセンター山口1階ショールームにて山口七夕会ふるさと山口本部主催の第5回音楽祭「輪」が開催され、山口七夕会会員を中心に90名を超える方々が参加した。

今回は三部構成とし、そのトップを飾っていただいたのは



山口市大内出身のピアニスト手嶋沙織さん。

武蔵野音楽大学器楽学科を卒業後、2009年にチャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院に留学。山口市に縁のあるというクラシック曲(ドビュッシー:月の光他4曲)を演奏していただいた。

会員たちはその曲に静かに耳を傾け、演奏終了と同時に会場は割れんばかりの拍手に包まれた。

その後乾杯へと移り、本会員でもある山口日産自動車 末富会長より今回ケータリングをお願いしたセントコア料理長が紹介され、料理長より本日の料理の説明をして頂いた。



スペイン料理に舌鼓しつつ、第二部の Just Friend によるバンド演奏が始まり、第一部とはまたうってかわり「イパネマの娘」など Jazz の名曲を中心にリズムカルなドラムの音が鳴り響いた。

第三部、トリを飾っていただいたのは、レナトリオによるバンド演奏。



ヴォーカルのレオノーラさんはCDをアメリカで録音されるだけのことはあって、そのハスキーな歌声とベース、ギターによる音のキャッチボールはとても心地よく、中でもビートルズのナンバーになるとお酒の力も手伝ってか、会場は大いに盛り上がった。

途中、会場に来られていたシンガーソングライターの藤井千尋さんに急遽、歌を披露していただくという一幕もあり、会場はまさに音楽の「輪」で繋がっていった。この音楽祭のテーマである「輪」。輪はわ、和、環に通じます。



音楽を通じて、家族の輪、友人の輪、地域の輪。それが重なり合い、繋がり合い、山口がもっと元気な地域になるようにと願い、頭の中ではすでに来年の妄想が始まった。

音楽を通じて、家族の輪、友人の輪、地域の輪。それが重なり合い、繋がり合い、山口がもっと元気な地域になるようにと願い、頭の中ではすでに来年の妄想が始まった。





## 第8回 田植え大会ご報告

ふるさと山口本部楽農部会長 関 和貴

5月13日に楽農部会と法人会員のアグリアートジャパン・村重酒造(株)の協力のもと、山口市徳佐で恒例の田植え大会を開催しました。参加人員は七夕会員12名、招待の児童養護施設の子供たちと職員30名、地元農家の方5名で計47名となりました。今年で8回目となります。楽農部会は『自然とのふれあいの中で人のつながりを大切に』との趣旨のもとにイベントを進めてお



ります。田植え⇒稲刈り⇒収穫祭。七夕会ですから酒は当然付き物です。今年は児童養護施設の子供たちを招待することになり5年目を迎えました。児童・職員合わせて30名。三反(3,000㎡)の田にコシヒカリを植えました。大型の田植機も繰り出し、子供たちにも体験試乗してもらいました。

お昼ご飯は阿東和牛とむつみ豚、地元の農家より分けていただいた徳佐のイノシシでのバーベキューを七夕会員のお世話で楽しみました。また、ゲストのQ蔵さん(田中敏光氏)のギター演奏で合唱もありました。子供たちも初めは

遠慮がちに見ておりましたが、Q蔵さんが童謡やアニメソングを始めると笑顔で踊りだしておりました。その笑顔が印象的でした。終了後、子供たちは山口線

SL山口号で徳佐駅から帰路につきました。日頃は閑散とした徳佐駅前に、子供たちの楽しそうな話声が溢れておりました。蒸気機関車ならではのゆっくりしたスタート。窓から笑顔で手を振る子供たち。後日、子供たちからお礼の手紙



をいただきました。子供たちと手を繋いでお世話していただいた皆さん、見送りに来ていただいた皆さん、ありがとうございました。七夕会も少しは社会貢献できたかもしれません。

なお、今後のイベントの予定です。稲刈り体験は9月の中旬頃になりそうです。ご案内しますのでお越しください。収穫した稲は『ハゼ掛け米』にして、10月中旬ごろから東京の高島屋二子玉川店にて『田楽米』として販売する予定です。首都圏の皆様方にも、ふるさと山口の新米を味わっていただきたいと思います。こちらもご案内いたします。



本部ゴルフ同好会「第2回八木重二郎杯」

本部副幹事長 藤井 謙志(会員No.611)

故郷山口への貢献を目指す山口七夕会も創立20周年の記念すべき年を迎えました。会では会員相互の親睦と教養を深めるための様々なイベント活動もしております。今回はその中でゴルフ部会の活動をご紹介します。

ゴルフ部会は数年間の活動休止期間を経て、昨秋八木重二郎会長の始球式を以て数年ぶりに復活致しました。半期に一度程度のペースでコンペを開催予定としております。皆様のご参加をお待ちしております。(親睦コンペですのでスコアを気にされることはありません。会でもビッグスコアを叩き出してしまふ猛者もいらっしやいます。)



【スタート前の希望に満ちた面々】

令和元年3日目である2019年5月4日(土)晴天の下、埼玉県武蔵 OGM ゴルフクラブにて“山口七夕会 創立20周年記念親睦ゴルフコンペ 第2回八木重二郎杯”を開催致しました。参加の皆さまは下記の通りです。(敬称略)

八木重二郎、渡邊史信、梅田圭良、久重剛志、武内浩、奥原保、大枝幹夫、密田孝代、利重尚義、藤井謙志。

ゴールデンウィーク中の開催でしたが、事前に確認した NEXCO 東日本の web 予測通り渋滞もなく、プレイフィーも平日料金と快適でお得な一日となりました。当日のスティンプメーターは9.0フィート、少し重めのグリーンコンディションの中、関東のゴルフ場と言うことで“6インチリプレイス、OK パットあり”のプレイファーストルールでのラウンドでした。(山口でのゴルフはノータッチ、OK パットなしが多い気が

します。)

今年からルールが変更されたためピンを立てたままのパットが多く見受けられる中、見事優勝カップを手にしたのは久重剛志さん、ベスグロは大枝幹夫さんでした。



【優勝は久重剛志さん】

八木会長からご提供頂いた賞品に加え、受賞に漏れた方へも参加賞をご用意しております。今回の参加賞は萩井上商店のしそわかめでした。(ぶち美味しい。)

会では今後も会場を変えることなく武蔵ゴルフクラブ(旧:武蔵 OGM ゴルフクラブ)での開催を予定しております。クラブバスがありますので車の運転が“せんない”方も電車とバスでご参加頂けます。



【プレー後の懇親会】

次回は第3回目となる親睦コンペを令和元年11月22日(金)の開催で予定しております。今後さらに参加者が増えて一層の親睦が深まる事を目指し、皆様のご参加をお待ちしております。よろしく、お願い申し上げます。

※最終ページのイベント案内をご参照ください。

「山口七夕会新会員・法人会員の皆さん」

平成30年度入会者	
NO	氏名
1	樋口 敬恭
2	野原 弘幸
3	藤井 千尋
4	松藤 尊文
5	森永 和子
6	藤井 実雄
7	糸賀 進
8	田中 裕康
9	田中 幹生
10	有江 哲治
11	佐藤 英仁
12	松居 宗隆
13	松井 秀治
14	齊藤 修一郎
15	北山 裕之
16	山根 祥二
17	真庭 宗雄
18	岡崎 龍也
19	山本 秀樹
20	奥 剛二
21	大槻 司
22	村中 正司
23	坂井 芳浩
24	藤原 裕宜
25	廣本 恵理子
26	原 貴恵
27	武内 浩
28	福谷 理恵
29	松本 孝亮
30	澤村 奎佑
31	寺田 勉
32	松村 卓正
33	石田 純子
34	山本 貴子
35	森田 鉄也
36	藤井 智佳子
37	永田 真結子
38	河合 裕美
39	柴田 尊明

平成30年度入会者	
NO	氏名
40	山下 りえこ
41	岸本 邦彦
42	関 周
43	森永 友世志
44	中村 潤一
45	藤生 憲治
46	河野 泰三
47	伊豫 勇佑
48	渡辺 豊子
49	原 智彦
50	松岡 宏明
51	前田 敏弘
52	藪 敏行
53	高石 清美
54	久賀 公夫
55	蔵藤 誠司
56	林 卓志
57	金森 廣
58	富田 剛史
59	内藤 剛志

令和元年度入会者	
NO	氏名
1	俵田 祐児
2	大浜 三平
3	渡辺 綾子
4	南 知子
5	平本 浩一
6	山田 豊佳
7	西村 朋美
8	奥田 和彦
9	田中 美旋律
10	井出 由希子
11	久保 孝
12	平佐 彰
13	新谷 文子
14	池上 勝憲
15	原田 哲也
16	谷口 志津子
17	陳 樹立

令和元年度法人会員	
1	村重酒造株式会社
2	山口日産自動車株式会社
3	旭水産有限会社
4	情熱ホルモン山口酒場(株式会社 ヒューマンティール)
5	株式会社 常盤旅館
6	株式会社 地域情報新聞
7	株式会社 毎日メディアサービス山口 周南支社
8	株式会社 技工団
9	日和協同組合
10	企業組合 アグリアートジャパン
11	金光酒造株式会社
12	有限会社劇団角笛
13	オンガネジャパン株式会社
14	一般社団法人平成の萩往還・中山間地振興をめざす会
15	山城屋酒造株式会社
16	マルシフードサービス株式会社
17	社会福祉法人 青藍会
18	株式会社セブンスシステム
19	株式会社光華
20	株式会社ベルミューズ
21	一般社団法人日本自動車連盟山口支部(JAF山口支部)

※会員数：394人、法人会員21社  
(令和元年8月31日現在)

## 事務局からのご案内

副会長・本部長 梶山 俊哉

### ☆SNS で七夕会関連情報をご覧ください！☆

山口七夕会では七夕会会報や七夕会通信にて、七夕会や会員の皆さんに関連する情報をお届けしています。一方で、印刷物の配布はコストもかかります。紙に替えてインターネットでの情報提供を希望される会員もいらっしゃいます。

今後、会員の皆さんにどのように情報をお届けしていくのが良いか、役員ならびに事務局にて検討して参ります。

会員の皆さんにおかれましては、パソコンやスマホにより、インターネットにて七夕会の関連画面をご覧くださいいただけますので、改めて次の通りご案内いたします。

①七夕会ホームページ (<http://www.yamaguchi-tanabataikai.org/>)

検索サイトで「山口七夕会」と検索していただければご確認ください。是非お試しください。

②七夕会フェイスブック

会員の皆さん限定となっています。閲覧を希望される方は、七夕会役員までご一報ください。

③山口市ファンクラブ (フェイスブック)

山口市からの委託事業の一環として、主として東京圏で新たなネットワークを構築すべく立ち上げたものです。公開ページですので、是非一度ご覧ください。

①七夕会ホームページ

②七夕会フェイスブック

③山口市ファンクラブ



### ☆メールアドレスをお知らせください！☆

山口七夕会からのお知らせは、現在、年3回(七夕会会報、七夕会通信)、山口市役所事務局から郵送によってお届けしていますが、イベントなどの情報を迅速にお届けするために、会員の皆さんのメールアドレスをお知らせください。

自宅のパソコンやスマホから、以下の梶山副会長・本部長のアドレス(※)宛に、会員名を記載してメールをお送りいただければ、七夕会情報メール送信用に登録させていただきます。

(※) [tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp](mailto:tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp) (梶山の七夕会専用のメールアドレスです。)

なお、パソコンからのメールを着信できないように(言い換えると、スマホや携帯電話からのメールのみ着信するように)設定していらっしゃる方は、上記梶山からのメールが着信するよう設定していただけますと幸甚に存じます。



事務局からのお知らせ

**=法人会員（年会費1万円）を募集しています！=**

～山口七夕会では、財政基盤の確立と組織の拡大のため、法人会員を募集しています！～

○山口七夕会では、各事業年度内に原則3回、会員みなさまに「山口七夕会会報」、「山口七夕会通信」や市報「やまぐち」などの情報をお届けしています。現在、会員数は394名ですが、法人会員みなさまは、各事業年度内に1度、チラシやパンフレットなどを同封してダイレクトメールとしてご活用いただくことができます。

(単純に計算しますと、切手84円(令和元年10月1日以降)\*394名=33,096円のコストが年会費1万円の法人会費に含まれることになります。)

○今後の会員への「山口七夕会通信」などの発送は、令和2年1月及び6月に予定していますので、既に法人会員に登録されている方はご継続を宜しく願います。

○また、新規に法人会員を募集しますので、会員みなさまの関係者やご懇意の法人様の紹介をよろしく願います。

お問い合わせ、申し込みは、以下の事務局まで願います。

山口七夕会 副会長・本部長 梶山 俊哉

◇山口市七夕会事務局(山口市企画経営課内)担当:小田口

TEL:083-934-2746

**<七夕会通信/原稿募集！>**

(1)事務局では、以下のテーマで原稿を募集します。

①「私と山口七夕会」

～今年で創立20周年を迎えた七夕会。発足から今までの出来事やエピソードをお寄せ下さい。

②「私と山口」

～山口にゆかりのある思い出から最近の出来事までをお寄せ下さい。

③「私の今」

～会員の方の近況を伝える原稿をお寄せ下さい。

④「自由テーマ」

～山口七夕会の活動に関連する原稿をお寄せください。

(2)字数

多くの方々の原稿を掲載するため、1,200字程度(写真がある場合はそのスペースを含みます)。

(3)原稿締切り:七夕会通信1月号に掲載を希望される方は、令和元年11月30日必着です。

(4)送り先:梶山副会長・本部長(メールアドレス:[tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp](mailto:tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp))

(電子データ:Word、テキストなど願います。)

## イベント情報【東京】

### 七夕会 20 周年記念記念 秋の講演会 & 第 31 回交流会

日時：令和元年 10 月 19 日（土）11 時～講演会、12 時 15 分～交流会  
場所：キーストーンクラブ東京（東京都港区六本木 7-4-12 ジャスミンビル 2F）  
講演講師：小倉 純二 氏（公益財団法人日本サッカー協会 第 12 代会長）  
☆交流会は恒例の、会員を中心とした秋の交流会です。ご家族やご友人をお誘いいただくこともできます。多くの皆さんのご参加をお待ちしております。

↑お問合せは本部長の相山までお願いします。（[tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp](mailto:tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp) / Fax 03-6800-3211）

### ゴルフ同好会 第 3 回八木重二郎杯ゴルフコンペ

日時：令和元年 11 月 22 日（金曜日）8:49 OUT スタート（8:15 キャデ イマスタ-室前集合）  
場所：武蔵ゴルフクラブ TEL 049-296-6350  
〒350-0323 埼玉県比企郡鳩山町大字小用 1026 番地  
アクセス / 自動車…関越自動車道 坂戸西スマートインターより約 6km  
その他…坂戸駅より送迎バスあり  
懇親会：プレー終了後 同クラブ内懇親会場にて  
お問い合わせ&申し込みは下記までお願い致します  
TEL：090-7251-8946 / Mail:fujiifam.bananafish@gmail.com（担当：藤井本部副幹事長）

## イベント情報【山口】

### ふるさと山口本部「秋の講演・交流会」

日時：令和元年 11 月 16 日（土）午後 6 時～9 時  
場所：セントコア「サファイア」（山口市湯田温泉 3-2-7）  
会費：6,000 円  
講師：市原 修俊 氏（興隆寺 住職）  
講演題目：「氷上山興隆寺北辰妙見社について」

### ふるさと山口本部 第 4 回「酎-Takenawa-祭」

日時：令和 2 年 3 月 7 日（土）午後 6 時～9 時  
場所：防長苑（山口市熊野町 4-29）  
会費：6,000 円  
☆地元食材を使った料理を県内地酒とともに楽しむ会です。

### 【重要なお知らせ】

- ◎転居されるご予約のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。（七夕会通信や市報等の資料が届かなくなってしまう！）
- ◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。（会員録の整理などの事務手続きに必要となります）

〒753-8650 山口市亀山町2番1  
山口七夕会事務局（山口市企画経営課内）  
TEL 083-934-2746 / FAX 083-934-2642